

ニホンナシ黒星病の秋期防除 対策を必ず実施しましょう！

平成20年9月17日 福島県農業総合センター

平成19年は、県下全域で黒星病の秋期感染が多く、これが本年の多発生につながりました(図1)。ニホンナシの黒星病は、秋まで感染が続きます(写真1)。秋に新梢の芽に感染した病菌は、翌年春に芽基部病斑(写真2)となって現れ、胞子を飛ばします。また、落葉は翌年春に胞子の発生源となり、果実や葉に黒星病を発生させる原因となります(写真3)。

来年の黒星病の発生を減らすために、秋期防除は必須の作業です。十分な散布量で防除しましょう。

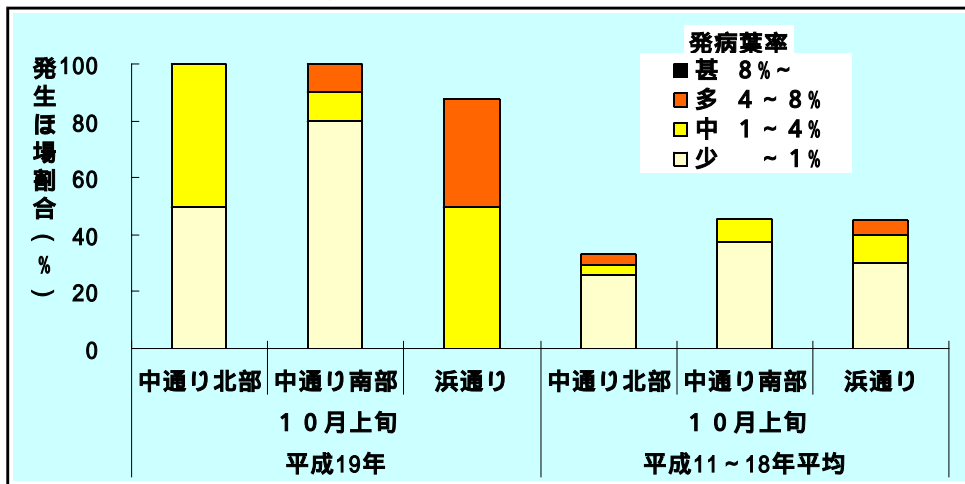


図1 平成19年におけるニホンナシ「幸水」新梢葉の黒星病発生ほ場割合(病害虫防除所)

< 主要な黒星病感染サイクルの一例 >

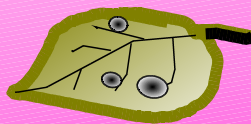
写真1 秋期に腋芽に感染



写真2 翌年春の芽基部病斑



落葉



分生子



写真3 展葉期以降、果実や葉に感染し、二次感染を繰り返す。

秋期防除の方法 ~ 2回の散布を必ず実施しましょう ~

防除の時期

第1回目 「幸水」収穫後（9月中旬）

第2回目 「豊水」収穫後（9月下旬～10月上旬）

防除上の留意点

- ・ 10月中旬まで新梢上に葉が残り、黒星病の感染・発病が多い場合は第3回目の防除を実施しましょう。
 - ・ 250ℓ / 10a以上を必ず散布しましょう。
 - ・ 薬剤耐性菌発生防止のため、E B I剤の散布回数は年間3回以内にとどめます。
 - ・ 収穫後の散布回数は、来年の生産果実への散布回数として数えられます。
- * 農薬の使用基準に十分留意して実施してください。

秋期せん定 ~ 秋期防除の前に秋期せん定を実施しましょう ~

秋期防除を実施しても、棚上面の長果枝等への薬剤付着が悪ければ効果は上がりません。このため、秋期防除の前に側枝の枝抜き等の秋期せん定を実施し、長果枝先端まで薬液が十分に到達するようにしましょう。

秋期せん定の適期

- ・ 1回目の秋期防除前に実施するのが理想的です。ただし、「豊水」の収穫まで間が無い場合は、「豊水」収穫終了後の秋期防除2回目の前に必ず実施してください。

秋期せん定の方法

- ・ 図2のように、各垂主枝の基部～真ん中付近にある古い側枝を、1本程度間引きします。
- ・ 4本主枝で、垂主枝を形成していない場合は、各主枝から2本程度（片側1本づつ）を同様に間引きしましょう。
- ・ 切り口には、直後に必ず塗布剤を塗布しましょう。

秋期せん定の注意点

- ・ 過度の秋期せん定は、貯蔵養分が減少し樹勢低下を招くので、切りすぎないようにしましょう。
- ・ 樹勢の弱い樹については、秋期せん定は実施しないでください。

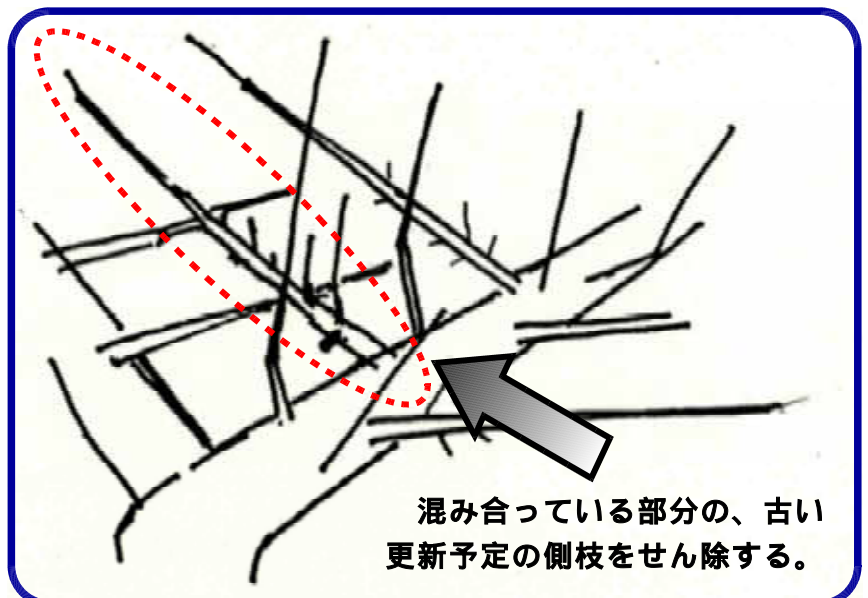


図2 秋期せん定の方法

落葉処理 ~ 風下に溝を掘って落葉を集めて埋めましょう ~

- ・ 園の風下に一直線の溝を掘って、落葉が風で自然に集まるのを待ちます(写真4)。落葉が終わったら埋め戻しましょう。
- ・ 溝掘りができない場合は、トラクター等によるロータリー耕を施し、落葉を土中に混和しましょう。



写真4 落葉処理の方法